

事例報告 (サンプル1)

記入年月日 : 2020年11月29日

氏名	■■■■■	所属	■■■■■
事例発生時期	2017年1月24日	事例終了時期	継続中
表題	胃癌術後の病状変化に伴う痛みに対し生活視点による疼痛発現状況の評価がオピオイド調整に奏功した1症例		

記載上の注意 : MS明朝 10.5pt の黒文字を用いて記載し、以下の6つの項目を含め1枚に収めること。

1. 患者背景(介入に至るまでの経緯)

X年4月、腹腔鏡検査にて、CY0の診断。X年5月、胃全摘 (stage IIIA) +RY 再建+D2 郭清施行。X年5月以降 (術後)、早期に肝転移あり、S-1 耐性と判断され、PTX 治療開始。その後、ラムシルマブを併用し始めたが、末梢神経障害が強く出たため、PTX 治療を中止し、ラムシルマブ単剤での治療となった。癌再発の有無の経過観察し、癌再発が無いことを確認した上で、抗がん剤治療なしで在宅療養する方針になった。

2. 介入が必要と考えられた問題点

胃癌術後、肝臓転移に対して化学療法施行され、繰り返される腹痛に対し、オキシコドン徐放カプセルの定時服用とオキシコドン塩酸塩水和物散の頓服がオピオイド処方として行われていた。疼痛管理に加え、服用薬剤の安定的な服用ができない状態もあったため、薬剤師の居宅療養管理指導が開始となった。

3. 介入の具体的内容

薬剤師介入時、疼痛管理に加え、服用薬剤の安定的な服用ができない状態もあったため、定時薬は服薬カレンダーに、オキシコドン徐放カプセルは服薬BOXを併用し、服用状況は改善した。痛みの増強がありアセトアミノフェン錠が2000mg/日に増量となり、痛みの状態は概ね落ち着いた。主訴である腹痛が癌性疼痛ではないことが術後検査より推察され、オピオイド減量計画を医師と協議した。医師の説明の後、薬学的管理の中でオピオイド減量・中止およびその過程での痛みの対処法の説明を継続的に行うことで、段階的にオキシコドン徐放カプセルを漸減・中止でき、痛みの訴えに対しては代替薬を提案し頓服対応で対処した。

4. 介入の結果および考察

胃全摘例であり胃酸と反応して緩下作用を示す酸化マグネシウムは削除とした。また、排便調節はオキシコドン徐放カプセル服用中はオピオイド誘発性便秘治療薬のスインプロイク®錠を服用して改善したが、オキシコドン徐放カプセル中止によりスインプロイク®錠を中止し、他剤へ変更対応した。癌再発はないことが確認され、腹痛の訴えは癌性疼痛ではなく他の要因の可能性が高く、オキシコドン徐放カプセルの中止や疼痛への代替薬の導入も含め、食行動や嗜好性の評価・指導を医師・看護師とも連携し実施して対応できた。

5. 今後の課題

生活視点で体調の変化を評価し、生活改善や医薬品の適正使用の徹底を行う必要があると考える。

患者情報

(事例報告 1)

年齢	70歳代	性別	男性	介護認定	要介護1
居住形態	居宅(賃貸アパート)	介入開始日	2017/1/24	介入終了日	継続中
疾病名	胃癌術後再発、転移性肝腫瘍、癌性疼痛、末梢神経障害				

表題は事例を端的に表す

事例の理解を促す背景を記載する

事例の問題点を明確に示す

介入経過を時間経過で示す

介入の根拠を示しながら、その後の経過を評価・考察する

所見	障害高齢者の生活自立度 : 自立、認知症高齢者の日常生活自立度 : I
医療系サービス	<input type="checkbox"/> 訪問診療 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護 <input type="checkbox"/> 看護職員訪問による相談・支援 <input type="checkbox"/> 訪問歯科診療 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問薬剤管理指導 <input type="checkbox"/> 訪問リハビリテーション <input type="checkbox"/> 短期入所療養介護 <input type="checkbox"/> 訪問歯科衛生指導 <input type="checkbox"/> 訪問栄養食事指導 <input type="checkbox"/> 通所リハビリ <input type="checkbox"/> その他()
介護系サービス	<input type="checkbox"/> 訪問介護 <input type="checkbox"/> 通所介護 <input type="checkbox"/> 短期生活介護 <input type="checkbox"/> 施設入所() <input type="checkbox"/> レンタル利用() <input type="checkbox"/> その他()
特別な医療	処置内容 : <input type="checkbox"/> 点滴の管理 <input type="checkbox"/> 中心動脈栄養 <input type="checkbox"/> 透析 <input type="checkbox"/> ストーマの処置 <input type="checkbox"/> 酸素療法 <input type="checkbox"/> 気管切開の処置 <input checked="" type="checkbox"/> 疼痛の管理 <input type="checkbox"/> 経管栄養 特別な対応 : <input type="checkbox"/> モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度 等) <input type="checkbox"/> 褥瘡の処置 <input type="checkbox"/> 失禁への対応 <input type="checkbox"/> カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル 等)
生活状況	身体に障害のある奥様との二人暮らし
精神状況	問題なし

生活や精神の状況の記載は事例の状態把握を促す

処方薬・サプリメント等の内容(薬品名、用法等)

介入前		介入後	
処方薬・サプリメント名	用法	処方薬・サプリメント名	用法
オキシコドン徐放カプセル 10mg	2C 2錠 8時・20時	(→削除)	
オキシコドン徐放カプセル 5mg	2C 2錠 8時・20時	(→削除)	
メコナミン錠 500μg	3錠 3錠 毎食後	(→削除)	
アセトアミノフェン錠 500mg	3錠 3錠 毎食後	アセトアミノフェン錠 500mg	4錠 4錠 毎食後・寝る前
酸化マグネシウム錠 330mg	6錠 3錠 毎食後	(→削除)	
プレガバリンカプセル 25mg	1C 1錠 朝寝後	(→削除)	
プレガバリンカプセル 75mg	1C 1錠 夕食後	プレガバリンカプセル 75mg	1C 1錠 夕食後
クロナゼパム錠 0.5mg	1錠 1錠 寝る前	クロナゼパム錠 0.5mg	1錠 1錠 寝る前
センソシド錠 12mg	1錠 1錠 寝る前	センソシド錠 12mg	1錠 1錠 寝る前
オキシコドン塩酸塩水和物散 5mg	1包 疼痛時	(→削除)	
ドンペリドン錠 10mg	2錠 2錠 朝・夕食後	ドンペリドン錠 10mg	2錠 2錠 朝・夕食後 (嘔気時のみ服用可)
		トラマドール塩酸塩錠 25mg	2錠 2錠 朝・夕食後 (疼痛時のみ服用可)
		モビコール配合内用剤	2包 1錠 夕食後
		ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒	疼痛時 1回 1包
		SG配合顆粒	頭痛時 1回 1包

処方変更状況をわかりやすく示す

医療衛生材料等の対応(名称・規格等)

特になし

他の職種との共同指導等の内容

サービス担当者会議およびあじさいネットワークによる情報共有を行った。

その他、特記すべき事項

特になし

共同指導内容があれば記載する